

**FUJIFILM**

## **2012年度 第2四半期 決算説明会**

**富士フイルム ホールディングス株式会社**

**2012年10月31日**

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2012年度第2四半期決算について  
ご説明させていただきます。

## 2012年度第上期 決算 概況

- 円高影響による売上減(203億円)、営業利益減(64億円)
- 欧州の景気悪化による需要減
- モニター市場の低迷と、それに伴う市場の在庫調整によるフラットパネルディスプレイ材料の需要減
- メディカルシステム・ライフサイエンスは堅調に推移

**厳しい事業環境により  
前年同期比で減収減益**

2

2012年度上期は、円高影響により、対前年で売上で203億円、営業利益で64億円の影響を受けたことや、欧州の景気悪化による需要減などにより、厳しい事業環境となりました。

フラットパネルディスプレイ材料は、モニター市場の低迷や、それに伴う市場の在庫調整の影響を受けましたが、メディカルシステム・ライフサイエンスなどの事業が堅調でした。

厳しい事業環境により、前年同期比で減収減益となりました。

## 2012年度上期 業績 (2012年4月～2012年9月)

(単位:億円)

	2011年度上期	2012年度上期	対前年度
売上高	10,834 100.0%	10,616 100.0%	-218 -2.0%
営業利益	590 5.4%	423 4.0%	-167 -28.4%
税金等調整前 四半期純利益	327 3.0%	330 3.1%	3 +0.7%
当社株主帰属 四半期純利益	149 1.4%	105 1.0%	-44 -29.7%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	30.93円	21.74円	-9.19円
為替 :米ドル	80円	79円	1円高
:ユーロ	114円	101円	13円高

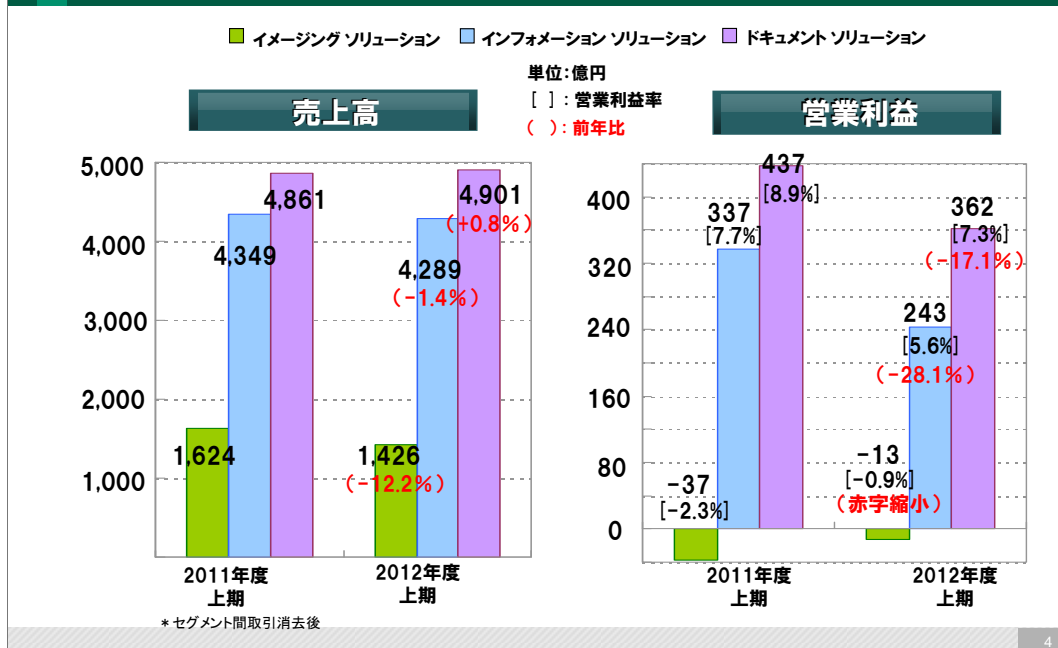
3

2012年度上期の連結売上高は、前年同期比2%減の1兆616億円、営業利益は、前年同期比28.4%減の423億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、投資有価証券評価損の減少や為替差損益の減少などにより、前年同期比0.7%増の330億円、

当社株主帰属四半期純利益は、持分法による投資損益が減少したことから、前年同期比29.7%減の105億円で、1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、21円74銭となりました。

## セグメント別：連結売上高／営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年同期比12.2%減の1,426億円、営業損失は13億円で、赤字幅が縮小しました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年同期比1.4%減の4,289億円、営業利益は前年同期比28.1%減の243億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年同期比0.8%増の4,901億円、営業利益は前年同期比17.1%減の362億円となりました。

## セグメント別 概況

### ■ イメージング ソリューション

- フォトイメージングでは、カラーペーパーなどのプリント材料製品の販売が堅調に推移。
- 特にカラーペーパーは、世界各国で他社からの切替が進み販売が好調。
- コンパクトデジタルカメラは、総需減の影響により売上が減少したものの、台数シェアは上昇。

減収であったものの  
フォトイメージングが好調に推移し、損益改善

5

イメージング ソリューション部門では、

フォトイメージング事業でカラーペーパーなどの  
プリント材料製品の販売が堅調に推移しました。  
特にカラーペーパーは、世界各国での他社からの切替が進み、  
販売が好調に推移しました。

一方、電子映像事業では、  
コンパクトデジタルカメラが総需減の影響により、売上が減少したものの、  
台数シェアは上昇しました。

イメージング ソリューション部門は、減収であったものの  
フォトイメージングが好調に推移し、  
部門全体で損益が改善いたしました。

## セグメント別 概況

### ■ インフォメーション ソリューション

- フラットパネルディスプレイ材料は、VA用フィルム・IPS用フィルムの販売が好調に推移。プレーンタック(60 $\mu$ )の拡販が進んだが、モニター市場の低迷とそれに伴う市場在庫調整の影響を受けWVフィルムが低調に推移し、売上が減少。
- メディカルシステムでは、医用画像ネットワークシステムなどの販売が好調、また携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加。医薬品は富山化学や富士フィルムファーマの売上が増加。化粧品は「新アスタリフト」を拡販したことなどにより、国内販売が好調に推移。
- 電子材料で引き続き売上が増加。グラフィック、記録メディア、光学デバイスは売上が減少。

**メディカル・ライフサイエンスは好調だったものの  
部門全体で減収減益**

6

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

フラットパネルディスプレイ材料は、VA用フィルム、IPS用フィルムの販売が好調に推移しました。60 $\mu$ のプレーンタックの拡販も進みましたが、モニター市場の低迷と、それに伴う市場の在庫調整の影響により、WVフィルムの販売が減少し、全体の売上也減少しました。

メディカルシステム・ライフサイエンスでは、メディカルシステムの医用画像情報ネットワークシステムなどの販売が好調、また携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加しました。医薬品は、富山化学や富士フィルムファーマの売上が増加し、化粧品では、リニューアルしたアスタリフトを拡販したことなどにより、国内の販売が好調に推移しました。

電子材料事業は、ArF液浸レジストなどの販売が好調で売上が増加しました。

一方、グラフィックシステム、記録メディア、光学デバイスでは売上が減少しました。

インフォメーションソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料の売上減少や欧州の景気悪化など外部環境の影響が大きく、メディカル・ライフサイエンスは好調だったものの、全体としては減収減益となりました。

## セグメント別 概況

### ■ ドキュメント ソリューション

- ・部門全体で国内、アジア・オセアニア地域のいずれも売上が増加。
- ・オフィスプロダクトの国内では、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加し、市場における稼働台数及びコピー枚数も増加。
- ・グローバルサービスは、国内において2桁の増収。
- ・欧州景気悪化や円高等の影響を受け減益。

増収を確保したものの  
欧州景気の悪化による影響等を受け減益

ドキュメントソリューション部門については、部門全体で、国内、アジア・オセアニア地域のいずれにおいても売上が増加しました。

またオフィスプロダクトの国内では、カラー機・モノクロ機ともに販売台数が増加し、市場における稼働台数、及びコピー枚数も増加しました。

またグローバルサービスは、国内において売上が2桁成長しました。

しかしながら、欧州景気の悪化や円高等の影響を受け、減益となりました。

## 連結貸借対照表

(単位:億円)									
	10年度末	11年度末	12年9月末	対11年度末		10年度末	11年度末	12年9月末	対11年度末
現金及び現金同等物	3,131	2,351	3,141	790	長短社債及び借入金	1,896	1,989	2,751	762
受取債権	5,022	5,565	4,929	-636	支払債務	2,614	2,584	2,211	-373
棚卸資産	3,422	3,780	3,887	107	その他流動固定負債	4,069	4,259	3,983	-276
有価証券 その他流動資産	1,533	1,524	1,596	72	負債計	8,579	8,832	8,945	113
流動資産計	13,108	13,220	13,553	333	株主資本計	17,225	17,218	16,900	-318
有形固定資産	5,641	5,539	5,371	-168	非支配持分	1,284	1,347	1,371	24
営業権	3,444	3,935	3,705	-230	純資産計	18,509	18,565	18,271	-294
投資有価証券 その他資産	4,895	4,703	4,587	-116	負債・純資産 合計	27,088	27,397	27,216	-181
固定資産計	13,980	14,177	13,663	-514	(単位:円)				
資産合計	27,088	27,397	27,216	-181	期末日 為替レート	10年度末	11年度末	12年9月末	対11年度末
					米ドル	83	82	78	4円高
					ユーロ	118	110	100	10円高

続いて、バランスシートについてご説明します。

2012年9月末時点の資産は、  
受取債権の減少、および株価下落による投資有価証券の評価額が減少した  
一方で、現金及び現金同等物が増加したことにより、  
3月末時点と比べ181億円減の2兆7,216億円となりました。

負債は、社債等長期借入金が増加した一方で、支払債務の減少などにより、  
113億円増の8,945億円となりました。

株主資本は、外貨資産換算影響などにより、318億円減の1兆6,900億円と  
なりました。

流動比率は3月末に比べ28.5ポイント増の219.4%、  
負債比率は1.6ポイント増の52.9%、  
株主資本比率は0.7ポイント減の62.1%で、  
資産の流動性及び資本構成の安定性を、ともに維持しています。

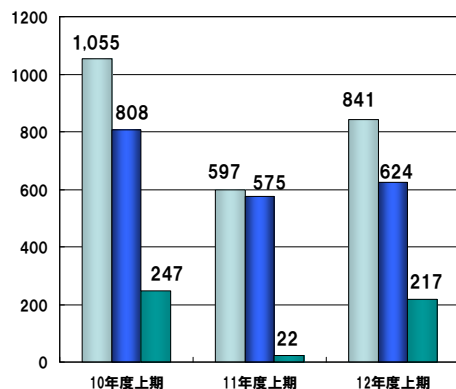


## キャッシュフロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュフロー
- 投資活動によるキャッシュフロー
- フリーキャッシュフロー

(単位:億円)



	10年度 上期	11年度 上期	12年度 上期
四半期純利益	449	215	175
減価償却費	768	704	669
受取債権の増(-)減(+)	74	15	497
棚卸資産の増(-)減(+)	-349	-191	-170
営業債務の増(+)-減(-)	-40	-160	-279
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-67	-160	-192
その他	220	174	141
<b>営業活動によるCF</b>	<b>1,055</b>	<b>597</b>	<b>841</b>
設備投資	-485	-510	-446
ソフトウェアの購入	-85	-98	-89
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	-129	151	100
その他	-109	-118	-189
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-808</b>	<b>-575</b>	<b>-624</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>247</b>	<b>22</b>	<b>217</b>
<b>営業活動によるCF+設備投資</b>	<b>570</b>	<b>87</b>	<b>395</b>

9

続いて、キャッシュフローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、841億円の収入となり、

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入などにより、624億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、217億円となりました。

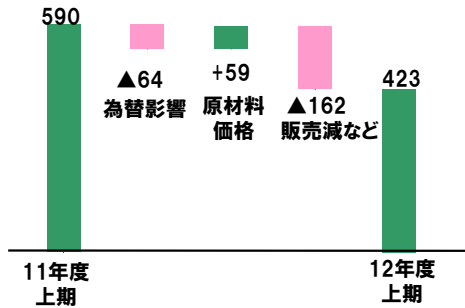
次のページ以降に参考資料としてセグメント別業績の詳細などを掲載しておりますので、ご確認ください。

続きまして、通期業績予想と今後の施策について、代表取締役社長・COOの中嶋よりご説明いたします。

2012年度 第2四半期 決算説明会

## 参考資料

## 営業利益 増減要因



(単位:億円)

2011 年度 上期	2012年度 上期			実績
	為替 影響	原材料 価格	販売増減 など	
590	▲64	+59	▲162	423

	2011年度上期 (平均)	2012年度上期(平均)	対前年度
<b>為替</b>			
米ドル	80円	79円	1円高 (1.3%高)
ユーロ	114円	101円	13円高 (11.4%高)
<b>原材料</b>			
銀	99,000円/Kg	76,000円/Kg	▲23,000円/Kg (▲23.2%)

< 当スライドは配付資料です >

## 2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
イメージング ソリューション	807	1,624	690	1,426	-198 (-12.2%)
インフォメーション ソリューション	2,169	4,349	2,271	4,289	-60 (-1.4%)
ドキュメント ソリューション	2,557	4,861	2,472	4,901	40 (+0.8%)
合計	5,533	10,834	5,433	10,616	-218 (-2.0%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
イメージング ソリューション	-24	-37	-36	-13	24 (赤字縮小)
インフォメーション ソリューション	139	337	168	243	-94 (-28.1%)
ドキュメント ソリューション	257	437	171	362	-75 (-17.1%)
全社/連結調整	-72	-147	-89	-169	-22
合計	300	590	214	423	-167 (-28.4%)

12

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 2Q/上期 セグメント別 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
フォトイメージング	513	1,010	481	959	-51 (-5.1%)
電子映像	294	614	209	467	-147 (-23.9%)
合計	807	1,624	690	1,426	-198 (-12.2%)

\*セグメント間取引消去後

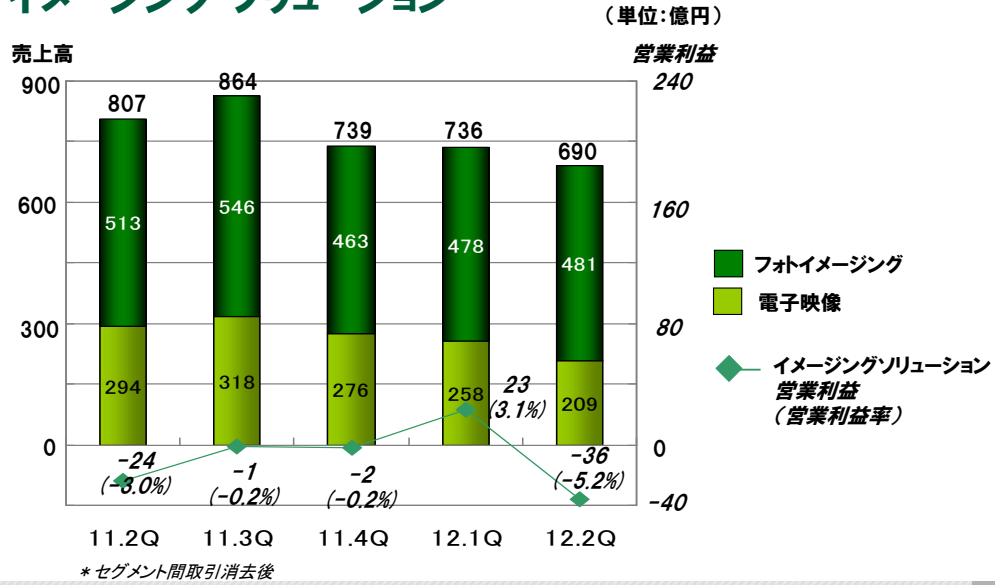
(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
イメージング ソリューション	-24 [-3.0%]	-37 [-2.3%]	-36 [-5.2%]	-13 [-0.9%]	24 (赤字縮小)

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージング ソリューション



<当スライドは配付資料です>

## 第2四半期 セグメント別 業績

### ■ イメージング ソリューション

#### フォトイメージング

- プリント材料製品が堅調に推移。世界各国で他社からの切替が進んだカラーペーパーは好調。
- 日本・欧州・米州・豪州などの主要国でフォトブックを中心とした付加価値プリントが増加したことも、カラーペーパーの販売好調に寄与。

#### 電子映像

- コンパクトデジタルカメラの需要減の影響を受け、売上は減少したものの、台数シェアは上昇。
- Photokina2012でレンズ交換式プレミアムカメラ「X-E1」とプレミアムコンパクトデジタルカメラ「XF1」、及び交換レンズ2種を発表。  
「X-E1」はPhotokina Star賞、「XF1」は「グッドデザイン賞」を受賞。

< 当スライドは配付資料です >

## 2Q/上期 セグメント別 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
メディカルシステム ライフサイエンス	726	1,338	827	1,504	166 (+12.4%)
グラフィックシステム	597	1,174	555	1,108	-66 (-5.6%)
フラットパネルディスプレイ	393	927	376	748	-179 (-19.3%)
記録メディア	115	235	94	192	-43 (-18.3%)
産業機材/電子材料他	202	400	294	496	96 (+24.0%)
光学デバイス	136	275	125	241	-34 (-12.3%)
合計	2,169	4,349	2,271	4,289	-60 (-1.4%)

\*セグメント間取引消去後

\*2011年度3Qよりグラフィックシステム・産業機材において一部事業移管があり、2011年度の数字もリスタートしております。

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
インフォメーション ソリューション	139 [6.4%]	337 [7.7%]	168 [7.3%]	243 [5.6%]	-94 (-28.1%)

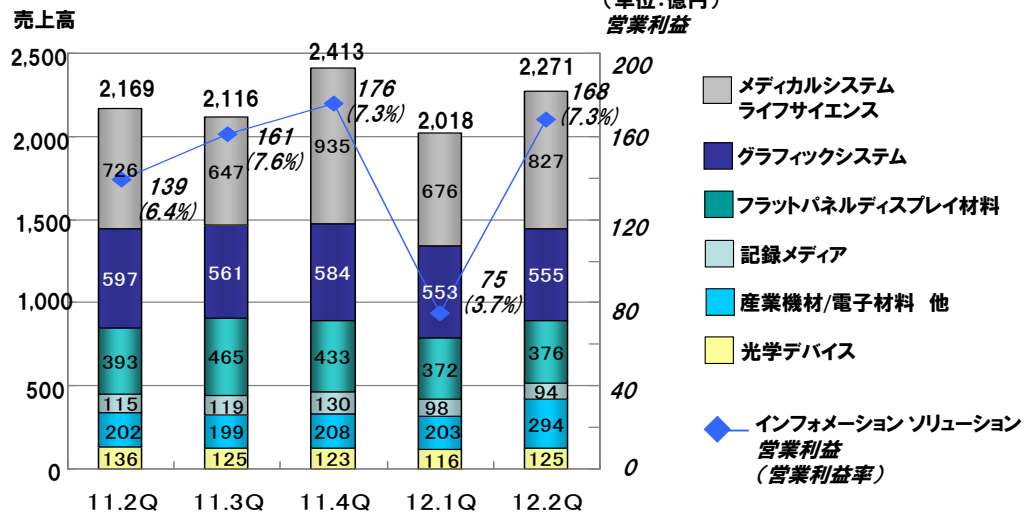
16

&lt;当スライドは配付資料です&gt;



## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ インフォメーション ソリューション



\* セグメント間取引消去後

\*2011年度3Qよりグラフィックシステム/産業機材において一部事業移管があり、2011年度の数字もリスタートしております。

<当スライドは配付資料です>

## 第2四半期 セグメント別 業績

### ■ インフォメーション ソリューション

#### メディカルシステム・ライフサイエンス

##### 【メディカルシステム】

- ネットワークシステム分野の売上が増加。医療用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」は国内約1,800の医療施設に導入されトップシェアを維持。また、欧州でも大型入札を獲得。
- 小型FCR「FCR PRIMA T」、また高画質経鼻内視鏡の販売が好調に推移。
- 携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加。

##### 【医薬品】

- 富山化学は「ゾシン」「オゼックス細粒」等の販売が好調に推移し、売上が伸長。また、抗リウマチ薬「コルベット錠(T-614)」を2012年9月12日より販売開始。
- 富士フィルムファーマは、バイエル薬品より専売権を獲得した薬剤の販売を9月より開始。

##### 【ライフサイエンス】

- 7月25日より新スキンケアシリーズ「ルナメア」を発売、また9月より化粧品「新アスタリフト」シリーズを発売。特にメイン商品である美容液「エッセンス デステニール」は好調に推移。

< 当スライドは配付資料です >

## 第2四半期 セグメント別 業績

### フラットパネルディスプレイ材料

- ブレンタック(60 $\mu$ )の売上増。またVA用フィルム・IPS用フィルムも販売が好調。
- モニター市場の低迷とそれに伴う市場の在庫調整により、WVフィルムの売上が減少。

### グラフィックシステム

- 主力の刷版材料が北米や欧州・中国などで好調に推移し、シェアも拡大。
- 欧州景気の影響を受け、デジタルプリンティング機器などの大型機の商談のずれ込みが発生。

### 記録メディア

- 為替の円高影響や、業務用ビデオの販売が総需減などの影響を受けて減少したことにより、売上が減少。

### 産業機材/電子材料 他

- 工業用X線フィルムの販売が好調に推移。
- ArF液浸レジスト、イメージセンサー用カラーモザイクなどの販売が好調で売上が増加。
- 有機ELの特許収入(83億円)。

### 光学デバイス

- 携帯電話用カメラレンズの販売が減少したことなどにより、売上が減少。

< 当スライドは配付資料です >

## 2Q/上期 セグメント別 業績

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
オフィスプロダクト	1,258	2,421	1,230	2,461	40 (+1.7%)
オフィスプリンター	417	787	387	789	2 (+0.3%)
プロダクションサービス	421	772	369	714	-58 (-7.5%)
グローバルサービス	250	464	270	508	44 (+9.5%)
その他	211	417	216	429	12 (+2.9%)
合計	2,557	4,861	2,472	4,901	40 (+0.8%)

\*セグメント間取引消去後

\*2012年度よりオフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っており、2011年度の数字についてもリステートしております。

(単位:億円)

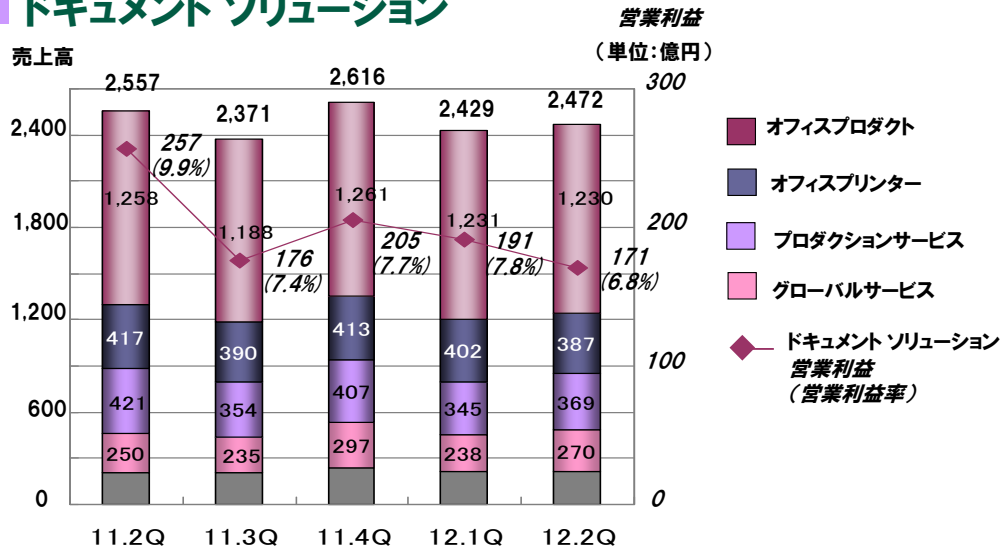
営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(上期)
	2Q	上期	2Q	上期	
ドキュメント ソリューション	257 [9.9%]	437 [8.9%]	171 [6.8%]	362 [7.3%]	-75 (-17.1%)

20

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメントソリューション



\* セグメント間取引消去後

\* 2012年度よりオフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っており、2011年度の数字についてもリスタートしております。

< 当スライドは配付資料です >

## 第2四半期 セグメント別 業績

### ■ ドキュメント ソリューション

#### オフィスプロダクト

- 国内は、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加、コピー枚数の増加等により消耗品及び保守サービス売上が増加。
- アジア・オセアニア地域は、6月発売の「DocuCentre S2010/S1810」の好調により、モノクロ機の販売台数が大幅に増加し、カラー機も増加。

#### オフィスプリンター

- 米国ゼロックス社向け輸出は、低速機の伸長により出荷台数が大幅に増加。
- アジア・オセアニア地域は、モノクロ機の販売台数が減少したが、カラー機の販売台数は増加。

#### プロダクションサービス

- アジア・オセアニア地域において、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売好調により販売台数が増加。

#### グローバルサービス

- 国内、アジア・オセアニア地域ともに売上が増加し、国内においては2桁増収。

< 当スライドは配付資料です >

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2011年度 上期		2012年度 上期		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	45.0%	4,873	45.4%	4,814	-59 (-1.2%)
米州	16.9%	1,833	18.1%	1,920	87 (+4.7%)
欧州	12.3%	1,335	11.3%	1,205	-130 (-9.8%)
内、中国	9.4%	1,023	8.8%	930	-93 (-9.1%)
アジア他	25.8%	2,793	25.2%	2,677	-116 (-4.1%)
海外	55.0%	5,961	54.6%	5,802	-159 (-2.7%)
合計	100.0%	10,834	100.0%	10,616	-218 (-2.0%)

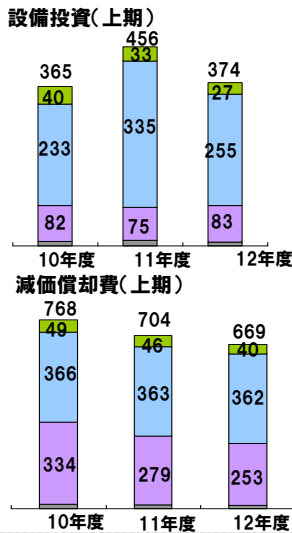
23

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



	2010年度			2011年度			2012年度		
	2Q	上期	年度	2Q	上期	年度	2Q	上期	年度 (予想)
イメージング	23	40	81	2	33	92	17	27	-
インフォメーション	142	233	618	197	335	598	130	255	-
ドキュメント	66	82	195	54	75	193	59	83	-
コーポレート	9	10	5	11	13	26	6	9	-
設備投資 ※	240	365	899	264	456	909	212	374	1,000
イメージング	26	49	101	21	46	108	18	40	-
インフォメーション	172	366	774	188	363	763	183	362	-
ドキュメント	168	334	658	137	279	575	126	253	-
コーポレート	17	19	38	9	16	32	6	14	-
減価償却費	383	768	1,571	355	704	1,478	333	669	1,500
有形固定資産の減価償却費 ※	259	511	1,066	229	452	966	221	430	1,000

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

< 当スライドは配付資料です >

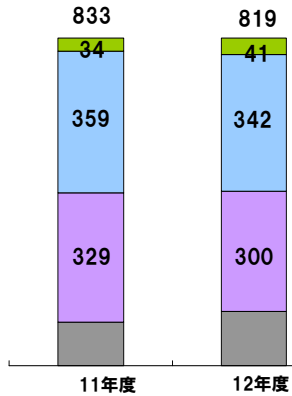


## 研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(上期)



	2011年度			2012年度		
	2Q	上期	年度	2Q	上期	年度(予想)
イメージング	17	34	72	24	41	-
インフォメーション	184	359	769	174	342	-
ドキュメント	172	329	641	156	300	-
コーポレート	58	111	252	70	136	-
<b>研究開発費</b>	<b>431</b>	<b>833</b>	<b>1,734</b>	<b>424</b>	<b>819</b>	<b>1,750</b>
<売上高比>	7.8%	7.7%	7.9%	7.8%	7.7%	7.9%
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,421</b>	<b>2,856</b>	<b>5,814</b>	<b>1,447</b>	<b>2,895</b>	<b>-</b>
<売上高比>	25.7%	26.4%	26.5%	26.7%	27.3%	-

<当スライドは配付資料です>

## 為替、為替感応度、人員

## 為替

(単位:円)

	2011年度						2012年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年度	1Q	2Q	上期	年度 予想
米ドル	82	78	80	77	79	79	80	79	79	79
ユーロ	117	110	114	104	104	109	103	98	101	100

\*2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル:14億円、ユーロ9億円

## 人員

(単位:人)

	2011.9末	2011.12末	2012.3末	2012.6末	2012.9末
連結	81,387	81,316	81,691	80,155	79,845

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 富山化学工業(株) 新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域*	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-705	抗ウイルス剤	日本						経口
		米国						
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本						注射**
		米国						経口/注射
		欧州						
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国						経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本						経口
		海外						
T-2307	抗真菌剤	米国						注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本						経口

\* 海外については富士フィルムグループとして開発

\*\* 経口剤は「ジェニナック」として発売

T-705は、日本においてP IIIが終了し、2011年3月30日に製造販売承認申請済み。

T-614は、2012年9月12日より販売開始。

27

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

**FUJIFILM**

2012年度 第2四半期 決算説明会

## 2012年度 通期業績予想と施策

代表取締役社長・COO  
**中嶋 成博**

2012年10月31日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

中嶋でございます。

通期の業績予想につきご説明いたします。

## 2012年度 連結業績予想 (2012年10月31日時点)

(単位:億円)

	2011年度	2012年度 (前回予想)	2012年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
売上高	21,953 100.0%	23,700 100.0%	22,100 100.0%	-1,600 -6.8%	147 +0.7%
営業利益	1,129 5.1%	1,400 5.9%	1,250 5.7%	-150 -10.7%	121 +10.7%
税金等調整前 当期純利益	892 4.1%	1,350 5.7%	1,050 4.8%	-300 -22.2%	158 +17.7%
当社株主帰属 当期純利益	438 2.0%	650 2.7%	450 2.0%	-200 -30.8%	12 +2.8%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	90.84円	134.94円	93.42円	-41.52円	2.58円
為替 :米ドル :ユーロ	79円 109円	78円 103円	79円 100円	1円安 3円高	- 9円高

\*2012年度 営業利益 為替感応度 米ドル:14億円、ユーロ9億円 下期 ドル円:78円、ユーロ円100円、銀価格 83,000円/kg

29

主要事業の環境が厳しく、残念ながら売上・利益ともに計画を下回って推移しております。

デジタルカメラの事業環境は、スマートフォンやカメラ付携帯電話の普及により、厳しい状況が続いており、またFPD材料のWVフィルムが主に使われるモニター市場の市況回復状況がやや遅れている状況です。また欧州景気悪化の影響を受け、大型機器販売の状況も厳しくなっています。さらに、新興国、特に中国経済の成長鈍化による販売への影響を受けています。

これらの理由から、2012年度の業績予想を、売上高については前年比0.7%増の2兆2,100億円に、営業利益については前年比10.7%増の1,250億円に下方修正いたします。

下期の為替レートは、ドル円を78円、ユーロ円を100円で想定しております。

現在、私が陣頭指揮をとって、現場力の向上を図るための活動(G-up活動)を全社挙げて強力に推進しております。この活動の中で、選択と集中を進め、全社レベルでの、設備投資の削減、R&D費やSG&A費削減、原価低減を思い切って進め、修正予想の達成を確実なものにしたいと思っております。

続きまして、下期のセグメント別の施策についてご説明いたします。

## 業績予想の前提となる下期のポイント

### イメージングソリューション

- ・デジタルカメラ市場は総需(コンパクト中心)が減少しているが、ハイエンド機種を中心とした新製品を拡販し、経費も削減。
- ・販売が好調なフォトイメージングのカラーペーパーを引き続き拡販。

### インフォメーションソリューション

- ・モニター市場の液晶パネル在庫調整が一段落し、FPD材料のWVフィルム需要が徐々に回復すると予想。また売上が急速に伸びているVA/IPS用フィルムの拡販。
- ・4Qが最大需要期である医療・ライフサイエンスでの拡販や、産業材料での新製品投入などによる売上増加。

### ドキュメントソリューション

- ・米国ゼロックス社向け輸出(特に欧州市場)の販売が減速しているものの、国内、アジア・オセアニア地域における拡販強化。

電子映像/FPD材料の売上挽回と  
好調なフォトイメージング/医療・ライフサイエンス/産業材料での拡販、  
また全社の徹底的な経費削減により達成

30

まず、イメージングソリューションですが、

デジタルカメラについてはコンパクトカメラを中心に総需が大きく減少していますが、Xシリーズなどのハイエンド機種を中心とした新製品の拡販に加え、

経費を削減いたします。

フォトイメージングでは、販売が好調なカラーペーパーを引き続き拡販します。

インフォメーションソリューションについては、

まずFPD材料について、モニター市場の液晶パネル在庫調整が一段落し、

WVフィルム需要が徐々に回復すると予想していることに加え、

売上が急速に伸びているVA用フィルム・IPS用フィルムの拡販を図ります。

FPD材料事業については、後ほど詳しくご説明します。

また第4四半期が最大の需要期である医療システム・ライフサイエンスでの拡販や、産業材料での新製品投入などによる売上増加を狙います。

ドキュメントソリューションでは、足元では欧州経済の悪化や円高などにより、採算が悪化しましたが、下期は、国内、アジア・オセアニア地域における拡販強化によって利益挽回を図ります。

このような、各事業の施策に加え、全社で徹底的に経費の効率化を図ることにより、目標とする通期業績予想を達成したいと考えております。

## 電子映像事業の下期重点施策

### ■販売戦略

- 交換レンズの拡充とシステム提案によるレンズ交換式プレミアムカメラの拡販・シェアアップ
- Xシリーズを中心とした、ハイエンドコンパクトデジタルカメラの新製品投入と拡販
- 販売ルート・店舗数の拡大による、新規購入顧客の獲得
- 顧客志向の徹底・浸透と、カスタマーサービス体制強化による顧客満足度の向上

### ■地域戦略

- 新興国を中心とした現地法人設立による直販体制の構築と、ローカル人材の育成

### ■経費削減

- さらなる原価低減と固定費の削減

それではここで、投資家の皆様方よりご質問を多くいただき、電子映像事業、フラットパネルディスプレイ材料事業ならびにドキュメント事業に関して下期重点施策をご説明いたします。

まずは電子映像事業ですが、交換レンズのラインアップを拡充し、システム提案によりレンズ交換式プレミアムカメラの拡販を図ります。またXシリーズを中心とした、ハイエンドコンパクトデジタルカメラを引き続き拡販します。

販売面では、販売ルート・店舗数の拡大により新規購入顧客の獲得を図り、新興国を中心とした現地法人設立による直販体制の構築と、ローカル人材の育成を急ぎます。

そしてさらなる原価低減と固定費の削減も進めていきます。

## FPD材料事業の下期重点施策

### 下期 重点施策

- 需要が拡大する薄手(40μ)のプレーンタックのシェアアップ
- 中小型用薄手プレーンタック(25μ)を年度内に量産化予定
- 売上順調なIPS用フィルムと、その対向プレーンタックの拡販
- VA用フィルムも売上が好調で、薄手化(40μ)対応強化により更なるシェアアップ
- 新たに2ラインを稼働し、プレーンタック・IPS用フィルム・VA用フィルムの生産能力を増強。特にVA用フィルムは既存ラインがフル稼働であり、販売を更に拡大

### 中長期 施策

- 需要が拡大する中小型向け薄手フィルムの開発
- WVフィルムの新規需要開拓（例: Ultrabook、TabletPCなど）
- 超広幅VAライン立ち上げによる、VAフィルムの更なる拡販

32

続いてフラットパネルディスプレイ材料事業についてです。

下期重点施策は、  
まず、需要が拡大する40ミクロンの薄手プレーンタックのシェアアップです。  
またプレーンタックでは、25ミクロン薄手プレーンタックは開発済みで今年度内に量産化を  
予定しており、  
成長が著しいスマートフォンやタブレットPCなどの中小型市場を狙います。

さらに、IPS用フィルムは上期では対前年14%増と好調で、60ミクロンの対向プレーンタックと共に引き続き拡販いたします。

また、VA用フィルムも、上期で対前年64%増と売上が好調ですが、40ミクロンの対応強化により更なるシェアアップを図ります。

生産能力では、新たに2ラインを稼働予定で、プレーンタック・IPS用フィルム・VA用フィルムの生産能力を増強します。特にVA用フィルムは既存ラインのフル稼働状態が続いており、能力を増強することにより、販売を更に拡大いたします。

中長期的な施策としては、

- ・需要が拡大する中小型向けとしてプレーンタック以外のフィルムを含む薄手フィルムの開発
  - ・ウルトラブックやタブレットPCなどのWVフィルムの新規用途による需要開拓
  - ・下期の重点施策でご説明した通り、超広幅VAライン立ち上げによる、VAフィルムの更なる拡販
- を中心に考えております。

今年度に稼働予定の2ライン以降は新たな大型設備投資の予定はなく、既存ラインを改良することで、これらの施策に対応したいと考えております。



## ドキュメント事業の下期重点施策

### ■商品・サービス

- ・ グローバルサービス、プロダクションサービス及びソリューションサービス(一般オフィス向け)の強化と拡大
- ・ 競争力の高い商品の拡販による売上の拡大  
ApeosPort-IV/DocuCentre-IVシリーズなど
- ・ Salmat Limitedのビジネスプロセスアウトソーシング事業の連結子会社化による収益貢献

### ■地域戦略

- ・ 国内6地域に設立した統轄会社による広域マーケティング展開、及びお客様との関係性強化によるソリューション・サービスの提供拡大
- ・ アジア・オセアニア地域での拡販、米国ゼロックス社と協業して新興国での拡販

### ■全チャネル、全事業領域における生産性改善等の体質強化による収益の向上

33

最後にドキュメント ソリューション分野では、グローバルサービス、プロダクションサービス及び一般オフィス向けのソリューションサービスの強化と拡大を図ります。顧客視点に立った付加価値の高いサービスの提供により、さらなる成長を目指します。

また販売が好調な、ApeosPort-IV(アペオスポートフォー)・DocuCentre-IV(ドキュセンターフォー)シリーズなどの、競争力の高い商品の拡販による売上増加を目指します。

下期には、サルマット社のビジネスプロセスアウトソーシング事業の連結子会社化による収益貢献を見込んでいます。

地域戦略では、国内6地域での統轄会社設立により、広域マーケティング展開を通じたソリューションサービスの提供拡大を図ります。また中国を始めとしたアジア・オセアニア地域での拡販に加え、米国ゼロックス社との協業により、新興国での拡販も図ります。

そして、2013年度の営業利益率10%の実現に向け、更なる収益向上を目指し、全チャネル・全事業領域における生産性改善等の体質強化を図ります。

# FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、  
最高品質の商品やサービスを提供する事により、  
社会の文化・科学・技術・産業の発展、  
健康増進、環境保持に貢献し、  
人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2012年度第2四半期決算と、通期業績見通し及び施策についてご説明いたしました。

ご静聴いただき、ありがとうございました。